

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ
(2024年3月18日(月)～24日(日))

岸和田聖書教会
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまを食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

3月18日(月)

今日の聖書日課：マタイ 25:14～30

主人は彼に言った。「よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。」

マタイ 25:21

「主人の喜びをともに喜ぶ」。その前に主人の期待を知り、その期待に沿って与えられたものを生かして生きるのです。神さまはあなたに期待しています。そしてあなたに生きる力、賜物を与えてくださいます。くださっています。「私には賜物がありません」と言う前に、神さまがあなたに注目しておられ、あなたに神の働きをすることを願っておられることに心を向けてください。主の御顔を仰いでください。そうすれば、やがて「主人の喜び」をともに喜ぶ日が来るのです。

3月19日(火)

今日の聖書日課：マタイ 25:31～46

すると、王は彼らに答えます。「まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。」

マタイ 25:40

このたとえ話で大切なことは、当初、王のしもべたちは、自分がしていること：「最も小さい者たちの一人にしたこと」が、王にしていることであると考えていなかったということ。けれど、彼らは自分たちが王のしもべであることは分かっていました。私たちも自分たちが主のしもべであるという意識をもって、主が自分にしてくださっていることを大きいことから小さいことまで、そして「最も小さい者たちの一人に」するのです。これまた「主人の喜び」をともに喜ぶことなのです。

3月20日(水)

今日の聖書日課：マタイ 26:1～13

貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいます。しかし、わたしはいつも一緒にいるわけではありません。

マタイ 26:11

このことに気づいた「ある女の人」(7)。そこで、今、できること、今イエスに対して自分ができることを急いで行ったのです。そうです。イエスは弟子たちにこう言われていました。「あなたがたも知っているとおりに、二日たつと過越の祭りになります。そして、人の子は十字架につけられるために引き渡されます。」(2)。それが何を意味しているのか、なぜそうなるのかはわからない。でも主がそうおっしゃっている。それで彼女は、「今しかない!」と思って、イエスの頭に香油を注いだのです。イエスを見て、イエスに聞く。しっかり聞く。それこそがイエスが語られた「この人の記念」(13)でした。

3月21日(木)

今日の聖書日課：マタイ 26：14～25

すると、イエスを裏切ろうとしていたユダが、「先生、まさか私ではないでしょう」と言った。イエスは彼に、「いや、そうだ」と言われた。

マタイ 26：25

イスカリオテのユダは震えたことでしょう。バレていた!自分がイエスを裏切ること、いや裏切っていることを知られていたのです。イエスはどんな気持ちでこれを言われたのか?その前に主は弟子たちにこう言われました。「人の子は、自分について書かれているとおりに去って行きます。しかし、人の子を裏切るその人はわざわいです。そういう人は、生まれて来なければよかったのです。」

(24)。イエスはユダに対して「帰ってこい、ユダ!」と言われたのではないのでしょうか?「生まれて来なければよかった」人などいない!「いや、そうだ」もまた、ユダを切り捨てているのではなく、はっきりさせた上で「帰ってこい!」と言われたのです。

イエスさまに立ち返るのに遅すぎることはありません。

3月22日(金)

今日の聖書日課：マタイ 26：26～35

また、杯を取り、感謝をささげた後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。」

マタイ 26：27～28

聖餐式のときに読まれることば。ぶどうの杯の意味がはっきりと示されています。しかし、イエスがこれを行われた過越の食事のとき、聞いている弟子たちは、今、私たちが理解しているようには考えていませんでした。「先生は私の罪のために血を流されるのだ」と納得した人はいませんでした。彼らはイエスが、自分は十字架につけられる、と言うのを聞いたとき、戸惑いは覚えたとしても、何も反応しませんでした(2)。それでも、イエスはこのように「最後の晩餐」を行ったのです。後の日のために。

3月23日(土)

今日の聖書日課：マタイ 26：36～46

それからイエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈られた。「わが父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにではなく、あなたが望まれるままになさってください。」

マタイ 26：39

心にあるまますを祈るのです。すると、神のみこころが改めて迫ってきます。

3月24日(日) 礼拝説教箇所：マタイ 26：47～56 「二つの裏切り」

イスカリオテのユダの裏切り、弟子たちの裏切り。イエスはどう捉えていたのでしょうか?